

願が

本文67P

隣室の巨乳美女が  
激しいセックスを求めてきた

東三

SEX  
事件

これは  
本当にあった



これは実際にあつた出来事である





ある夏の  
真夜中

性欲に溢れた  
2人の若者が



アパートで  
これからの  
人生を



お互いに  
語り合っていた



カッ  
カッ  
カッ



こんな夜遅くに  
誰だよ？



はいはい

あのお...

こんばんは.....



ええっ…  
これは……

バスタオルに  
包まれた困った顔の  
巨乳美少女を  
見た時

まるで現実じゃないかの  
ような感覚に陥った

もしかして俺は  
寝ぼけてるのか？

まるで  
夢と幻

こんな状況  
……

AVでしか  
見たことないぞ

あのお…

夜分遅くに  
申し訳ないのですが……

私の洗濯機  
おかしくなっちゃって  
ちよつと見て  
もらえないかしら？

洗濯機？  
なんか変な  
理由だな

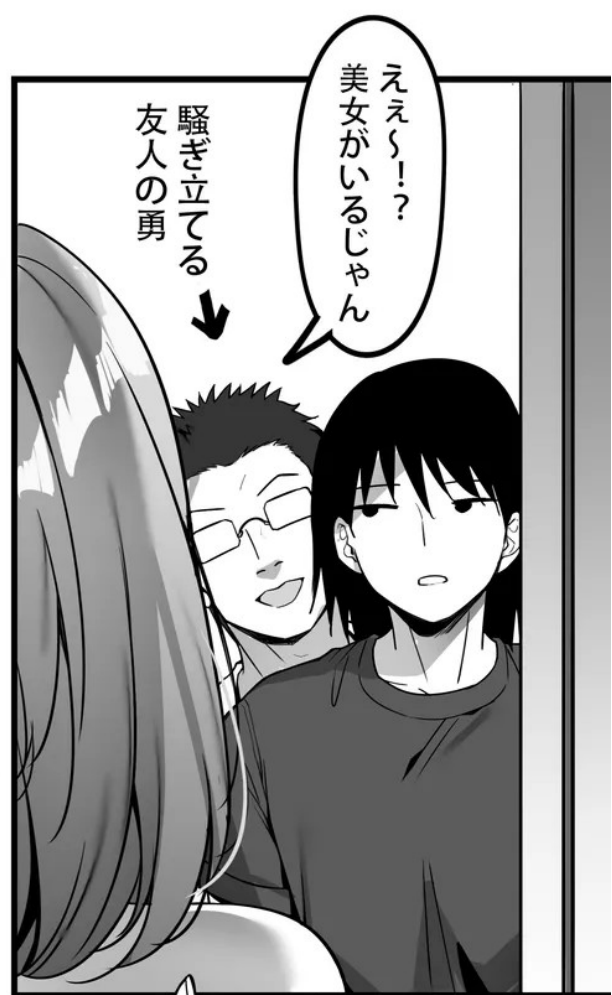




ちよつとこの子の  
洗濯機見てやってよ

そつえば、お前確か  
家電に詳しいよな？

おお、それでその  
洗濯機はどこ？



ええー！？  
美女がいるじゃん

騒ぎ立てる  
友人の勇  
↓



あつちの702  
号室です



この子泊まりに来た  
ばかりなのかな？



突きあたりの  
702号室

確かあの部屋  
民宿やってるよな

よくいろんな人が  
出たり入ったりしている





天性の人見知りの  
俺にとっては  
ハードルが高いけど…

こんな巨乳美少女が  
俺を誘ってるんだ  
行かなければ……

行ってみると

俺は今までにない  
奇妙な体験を  
することになった

後ろから友人の勇が  
厳しそうな顔で俺を  
見ている

口を動かして何か  
伝えよう  
としているようだ

だが、俺にはその  
意味がまったく  
分からない…

ひとまず  
行ってみるか

思いも寄らず



ハッ  
ヤ

702

お手数おかけ  
します

どうぞ入って

サッ

うわっ、やばっ!

やわらかい!

すみません!

この子は全く  
気にしていない様子だ

でも...

もし直せなかったら  
ごめんなさいね

もしかしてわざと  
俺に当ててきた  
のか...!?



ぼんやりと暗い  
部屋の中に

かすかな光と  
濃厚な香水の匂いが  
俺をうっとり  
させる……

洗濯機は  
あちらです

洗濯機どこが  
おかしいん  
だろう

中には下着が  
入っている……

フワフワそうな  
ベッドと、柔らかい  
巨乳に囲まれて  
おかしくなりそうだ

曖昧な雰囲気……

なんでだろう……  
どうしても

洗濯機が  
起動しないの

申し訳ないのですが

俺にはどこに  
問題があるのか  
分らないです……

ちょっと待って  
もしかして……

ああ！  
やっぱり！

蛇口を開けるの  
忘れてたみたいです

ハッ！

だからさっき  
……



はぁ

まわ

!



これは突然

私に降りかかった



リアルな事件である





面識もないこの  
巨乳美少女が

突然裸になって  
俺の前に現れた

俺の頭の中は  
真っ白に…

彼女の目から  
緊張感、羞恥心、期待感  
が垣間見えた時

俺はやっと現実に  
戻ることができた

だが、この状況に  
どう対応すれば  
いいんだ…

あの…

洗濯機もう  
使えらと  
思いますので

あの、もし他に  
用事がなければ…

じゃあ、そろそろ  
失礼します

ヒッ  
ッ





うう!

さっきじっくり  
見たはずなのに

それとは比べものに  
ならない  
激震が走る!

やり慣れては  
いなさそうだな

彼女とっても  
恥ずかしそうだ



10  
41

?

でも…

この子はなんで  
俺を誘惑したんだ？

ただ単に飢えて  
いただけなのか？

わお  
すごすぎる

モミ

あのう…

もう少し力  
入れてくれない？





わっ、  
分かった！

うん…  
もっと強く…

いい感じ！

うんっ…  
もっと強く！

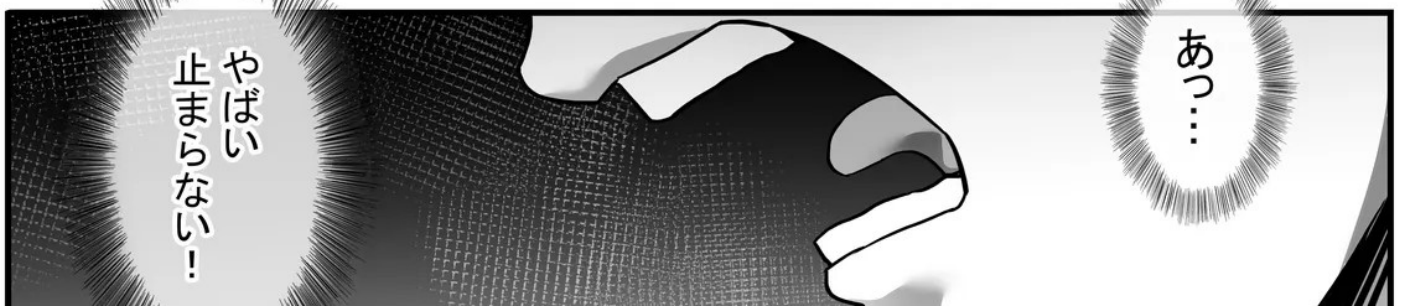
んあっ！

んあっ…

んあっ！









くそっ！

雑念に構って  
られるか！

あっ

0  
1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40  
41  
42  
43  
44  
45  
46  
47  
48  
49  
50  
51  
52  
53  
54  
55  
56  
57  
58  
59  
60  
61  
62  
63  
64  
65  
66  
67  
68  
69  
70  
71  
72  
73  
74  
75  
76  
77  
78  
79  
80  
81  
82  
83  
84  
85  
86  
87  
88  
89  
90  
91  
92  
93  
94  
95  
96  
97  
98  
99  
100

閉じこもっている  
イチモツを

俺の頭を  
思考停止させ

解放する  
しかない





チンチンだあ  
太くて硬くて  
興奮する！



早くこの大きな  
チンチン差し込んで！

うう！



下ネタ  
話し始めた

急に



マジで  
積極的だな！

こりや慣れ  
ているな





相当飢えていた  
ようだな



うう、  
ビショビショ！



あつ…  
気持ちいい！

あうう…  
入った！

最高だ！

私の穴がチンチンで  
塞がれた



うう……

この表情  
騙してない

きっと彼女は  
楽しんでる！





身体の動きが  
勝手に  
加速する！

俺もこんなに  
飢えていたのか？

焦りすぎると  
すぐにイッてしまう



あっ！

んあっ！

んあん

分かったぞ！

んあっ

んあっ

んあっ



彼女

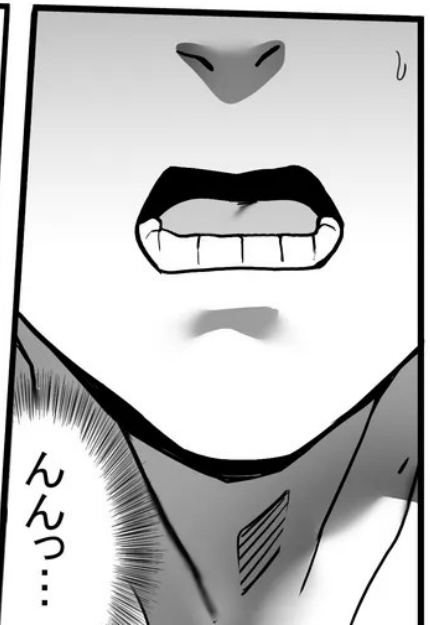
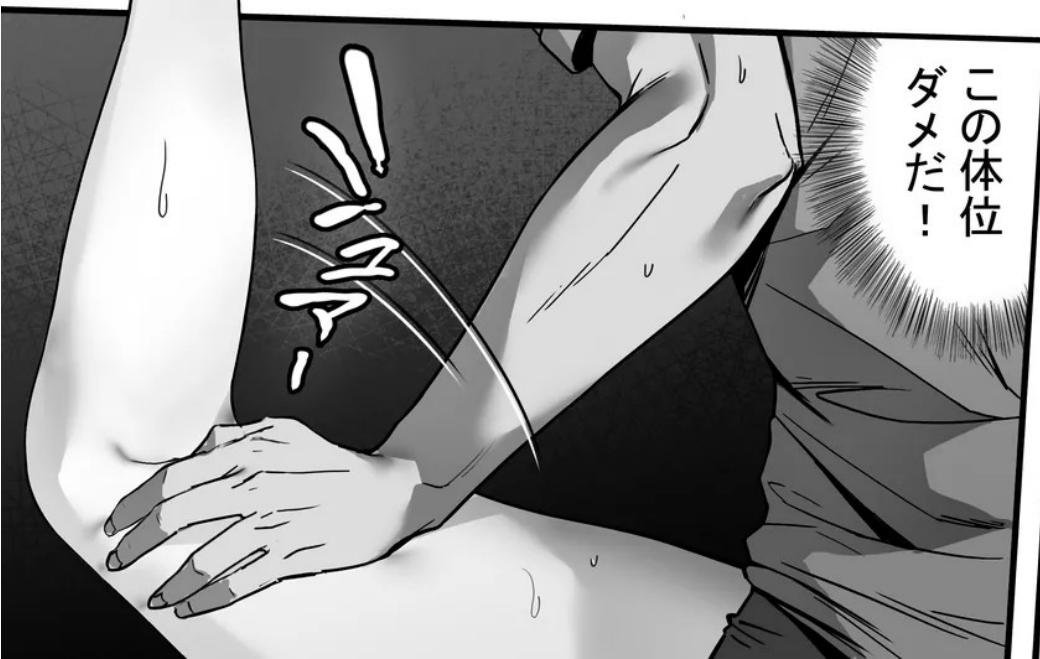
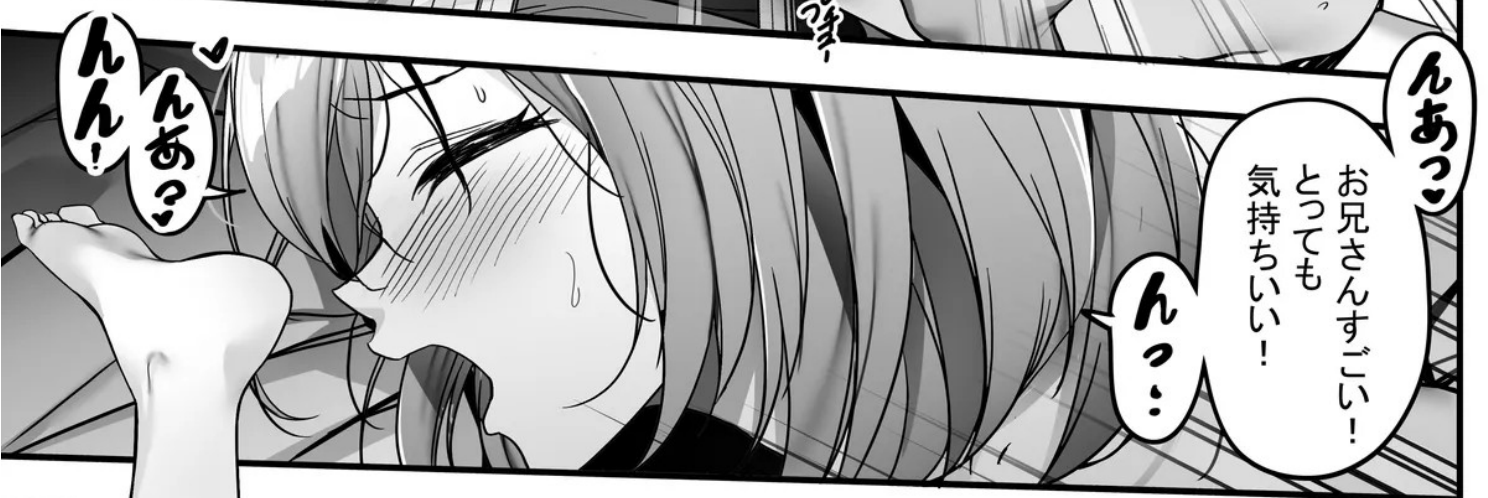
特有の  
この感じ

この顔  
この表情  
このうめき声  
がミックスして

俺の心を  
騒ぎ立て

肉棒だって  
異常に興奮  
している！









あーっ

ッッッ

よし  
これだ！

ッ

ッッッ

あっ！

チンチンさらに  
大きくなってる！

ッッッ

ッッッ

ッッッ

ッッッ

ッッッ

んあーんあーん



お兄さんのチンチン

子宮に達した

んあっ! っ! っ!

んあっ! っ! っ!

んあっ! っ! っ!

んあっ! っ! っ!

んあっ! っ! っ!

んあっ! っ! っ!

やっぱりこれが  
好きみたいだな!

すっ

すいー!

もう  
最高!

ホントに不思議だ!  
こんなに  
気持ちいいなんて!

んあっ! っ! っ!











出たっ！

ああああ…  
ヤバイ！



本当に……最高！

しっかりと感じる  
お兄さんの

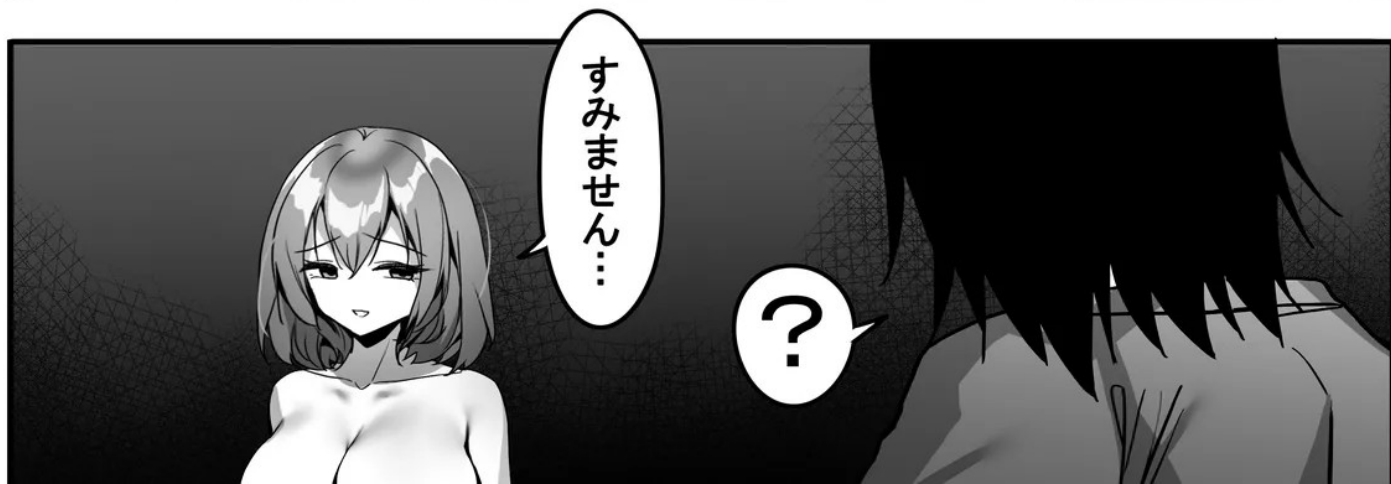
大きくて、立派な  
巨大なおチンチン  
の形が



もう一発  
やりたいな…



わあ、いっぱい  
出た…





お兄さん少し  
待ってください

ええっ  
なに？

お兄さんもう一回  
できるんでしょう？

うん、俺は  
まだできるよ

じゃあ、私に  
時間をちょうだい

おチンチンちゃんと  
休ませておいて

ハヤ

.....  
？

正直さっきは  
かなり快感だった！

ただ、何かが  
おかしい気がする

彼女みたいな美女が  
こんなに飢えている  
はずがない  
あまりにもガツガツ  
しすぎてないか

いわゆる  
ヤリマンってやつか？

つか、彼女  
今何をやって  
るんだ？

やばっ  
これガチの  
色仕掛けじゃないよな...

ごめんなさい  
お待た  
せました

準備が整い  
ました...

！

もう一回

やりましょ

こっ、  
これは……

セクシーすぎ  
だろ……！

お兄さんのおチンチン  
も準備できました？

うん  
おれは問題ないぜ

なるほど、これに  
着替えていたのか







でも、  
今回は…

お兄さんに  
お願いがあるの



やって欲しい  
ことがあって…

おお、なにを  
すればいいの？

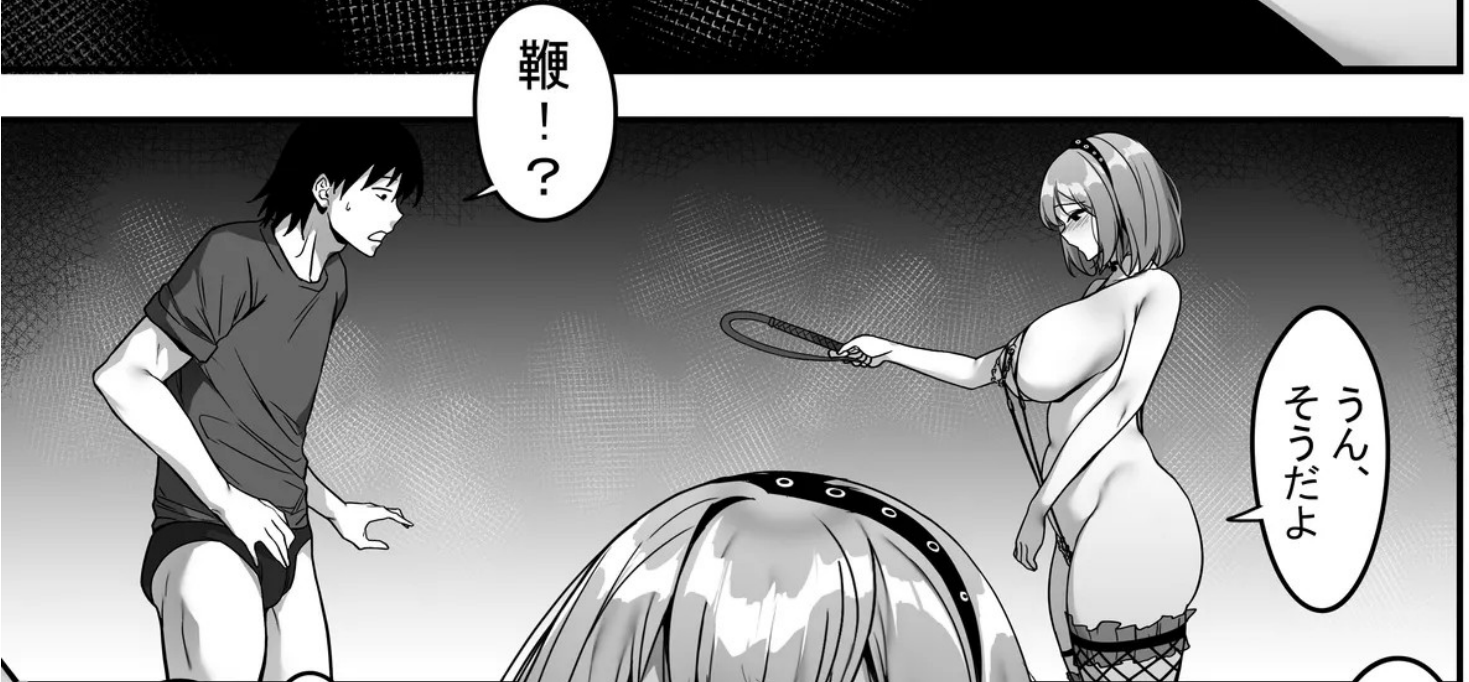
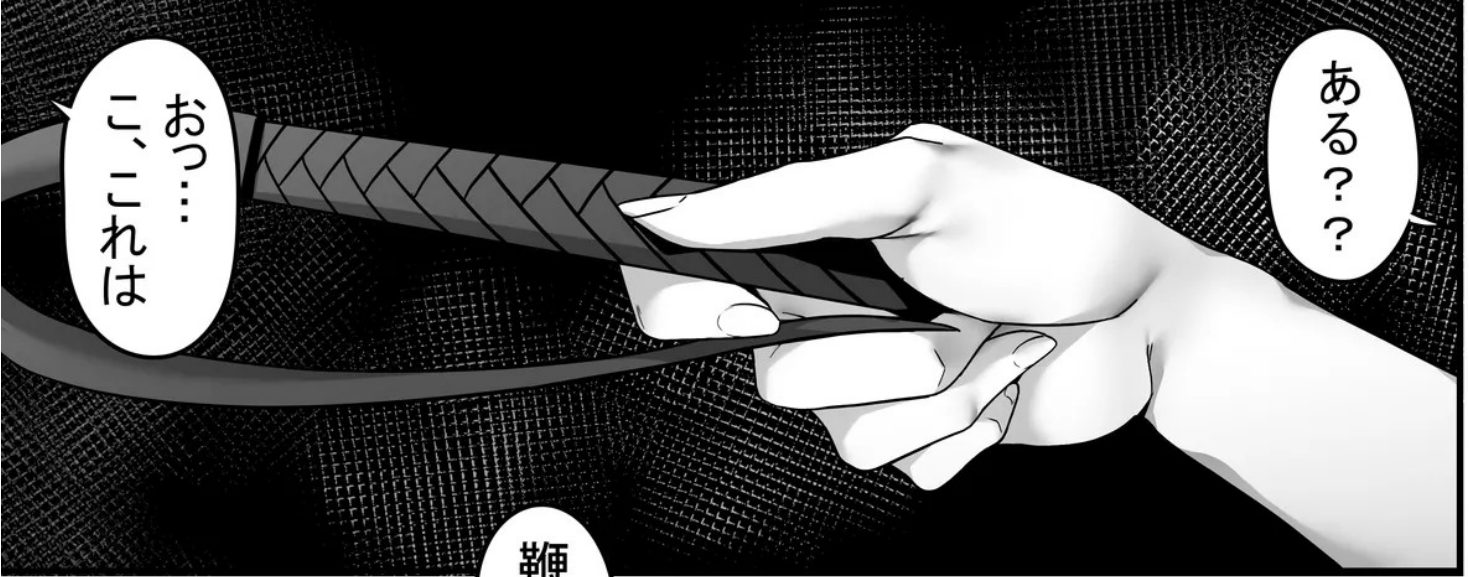


あのね……



これ使った  
こと……

？





でも……

俺も多少SM  
グッズの  
使い方知って  
はいるけど

実際に使うとなると  
どうしていいか  
この鞭何か特別な  
使い方あるの？

実際  
俺はかなりの  
正統派だぞ

大丈夫！決まった  
使い方なんてないから

お兄さんの好きな  
ようにして

……じゃあ  
試してみるか

安心して、そんなに  
強くしないから

いやーんっ！







「この表情…」

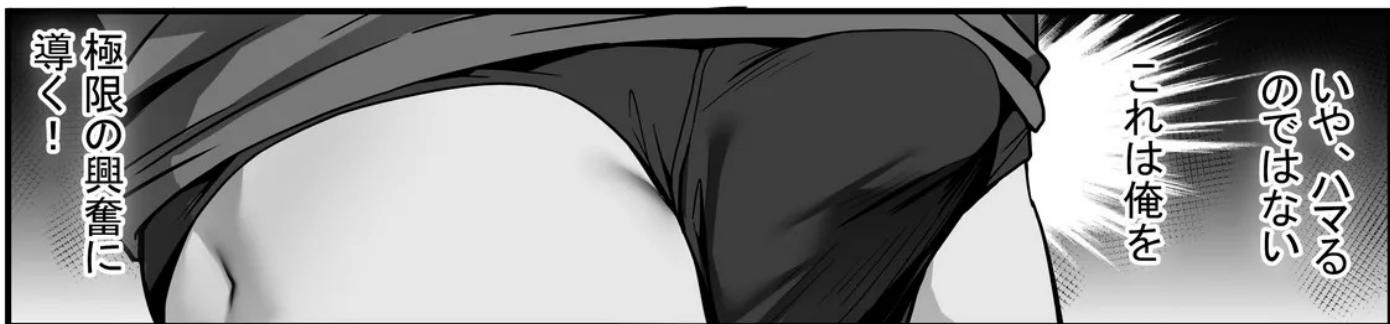
「この我慢  
してる顔に…」



だんだんと  
惹かれて…



ハマっていく…



いや、ハマる  
のではない

これは俺を

極限の興奮に  
導く！



なによ！



こんな小さな傷跡で  
大げさに騒いで

やっぱりお兄さんの  
おチンチンの方が男らしい

男なら

豪快に手を出しなよ

な、何だって!?

なぜか分からないけれど  
この言葉が俺の  
耳に強く刺さった

考えてみると

この後は



制御不能に  
なるだろう…

あっ…痛い！

うっ！

うっ！

俺の力もますます  
強くなっていく

今こゝから

高速に鞭を振り回す

うっ！

痛いっ！

彼女のうめき声も  
どんどん大きく  
なっていく





そうだ

うう……  
お兄さんもう許して…

まさにこれが  
正統派の俺に起きた

うう…



このゲスな私を  
許して！

私が悪かった  
お願い！

本当の出来事である

もう、私二度と  
あんなこと言わない



絶対にまちがいない



痛くて我慢できないよ…



彼女の全身にできた  
傷を見た時

俺は彼女の下の方も  
興奮でビショビショに  
なっていることに気付いた！

なんだ、俺も加虐が  
好きだったのか！？



くわっ

抵抗するんじゃない！

おい！

手を  
どかせ！



.....!



手で抵抗をする  
べきじゃなかった...



ちよつと、やりすぎ  
だったよな？

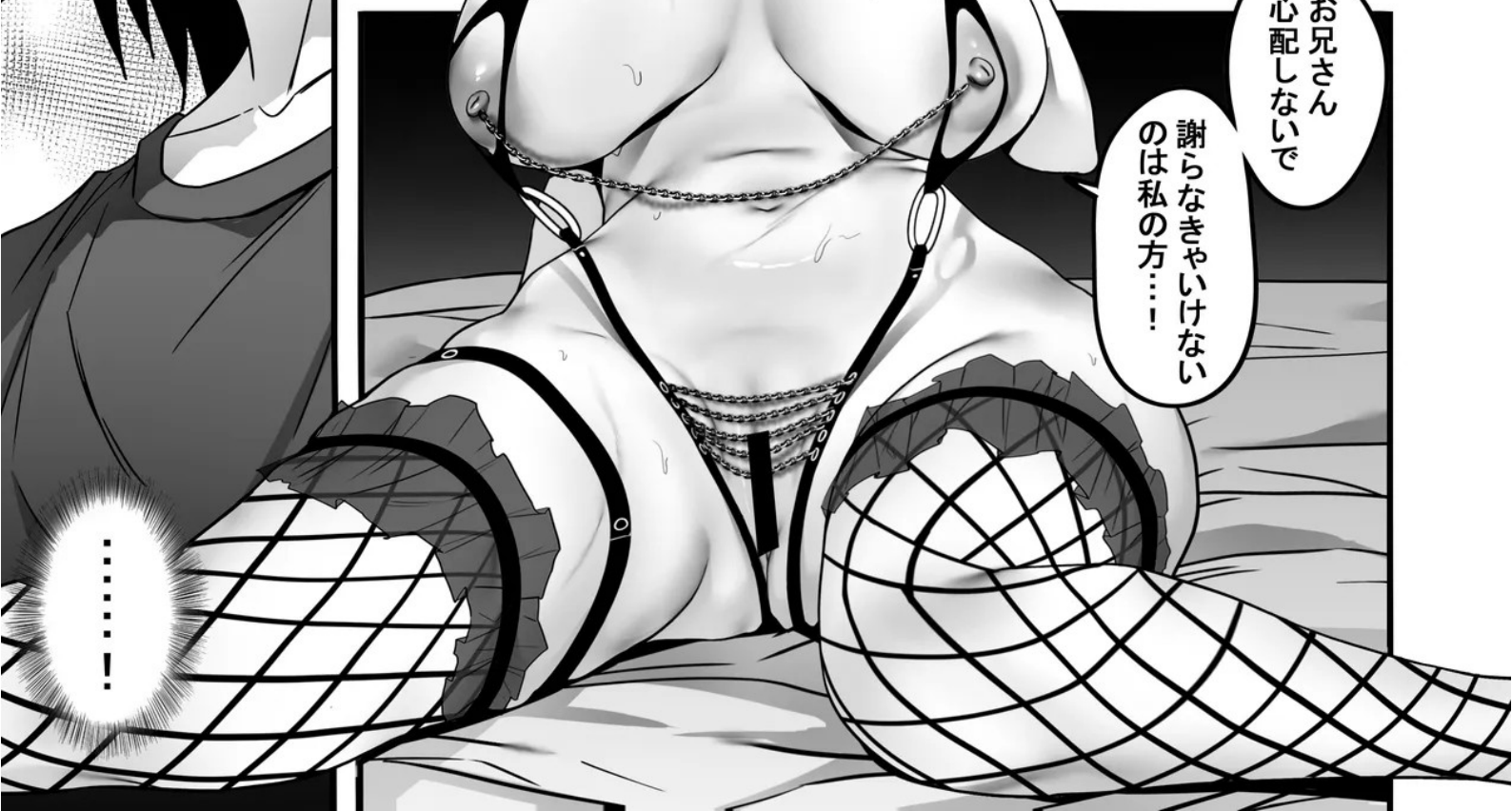
あつ、ごめん！  
つい、なんか  
浮かれちゃって...



違うよ

お兄さん  
心配しないで

謝らなきゃいけない  
のは私の方...!



.....!



今度は抵抗なんて  
しないから

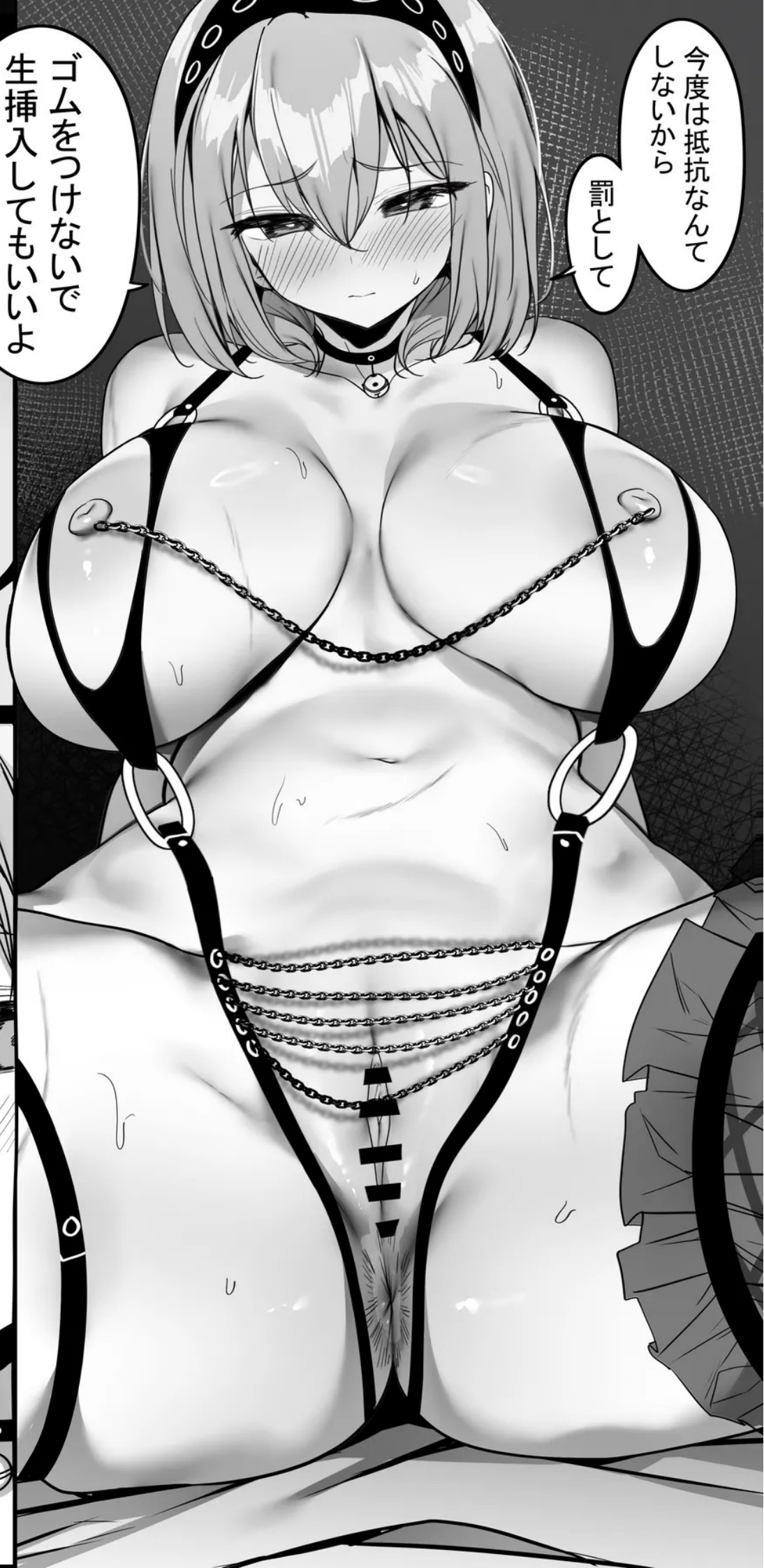
罰として

ゴムをつけないで  
生挿入してもいいよ

分かった…

まったく  
従順な子だな！

完全に俺に  
服従している！





興奮が頂点に達した！

私今日はもう疲れた！

ダメ！

ダメだ、じゃないとパンツに出してしまう

元々？！







あつ、嫌あー!!

犯してやるー!

ゴムつけなくていいんだろ

うん  
大丈夫

生挿入楽しみで  
仕方ないわ！

ゴムなし

の  
ア  
キ

の  
ア  
キ

いやああー！

ーりやすーいぞー





S M 後、感度が  
さらに増している！



生挿入  
最高！

んあ？

んあ？  
んあ？  
んあ？

すごく硬い！

んあ

んあ

ああ  
ん！

んあ

んあ



んあ



今度はもっと  
乱暴に犯してやる！

んあ

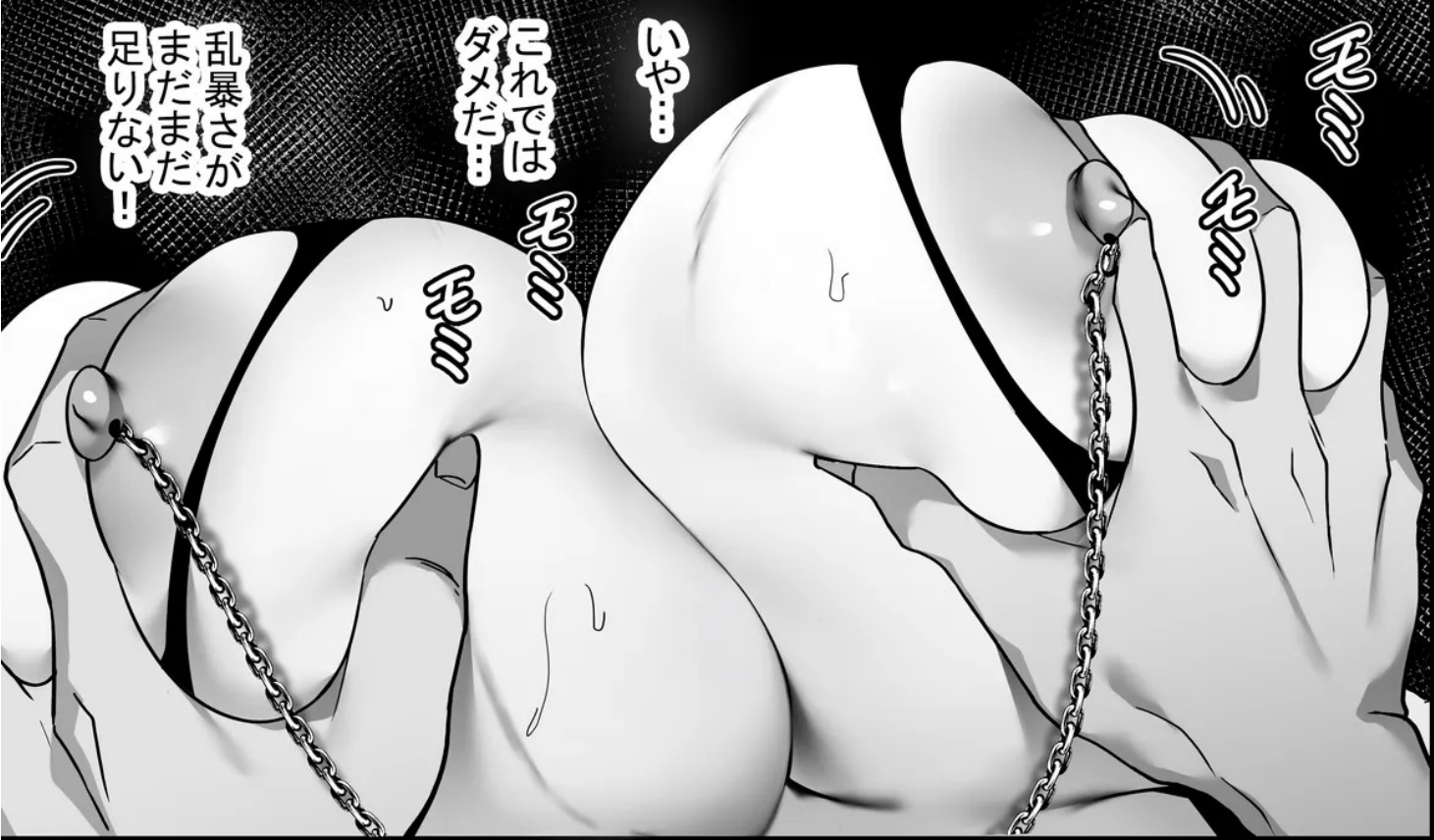
んあ

んあ

んあ

ああ  
んあ

爽快だあー！



乱暴さが  
まだまだ  
足りない!

これでは  
ダメだ!

いや!

モモ

モモ

モモ



どうせ  
やるなら



わが  
ぐ



刺激がもっと  
あった方がいいだろう!







そうだったのか！

だったらもっと！

ああ、痛い！



まるで俺は



ああああー

ヤバイ  
最高！





野獣のようだ！



ああ！

もっと力入れて！



狂ったように  
セックスする野獣！



ああつ！  
痛い、気持ちいい！

お兄さんの  
チンチンとお口  
どっちも  
最高ー！

ああ

彼女は痛みから  
快感を得て

俺は暴力から  
快感を得ている

もっと力入れて！  
ああつ

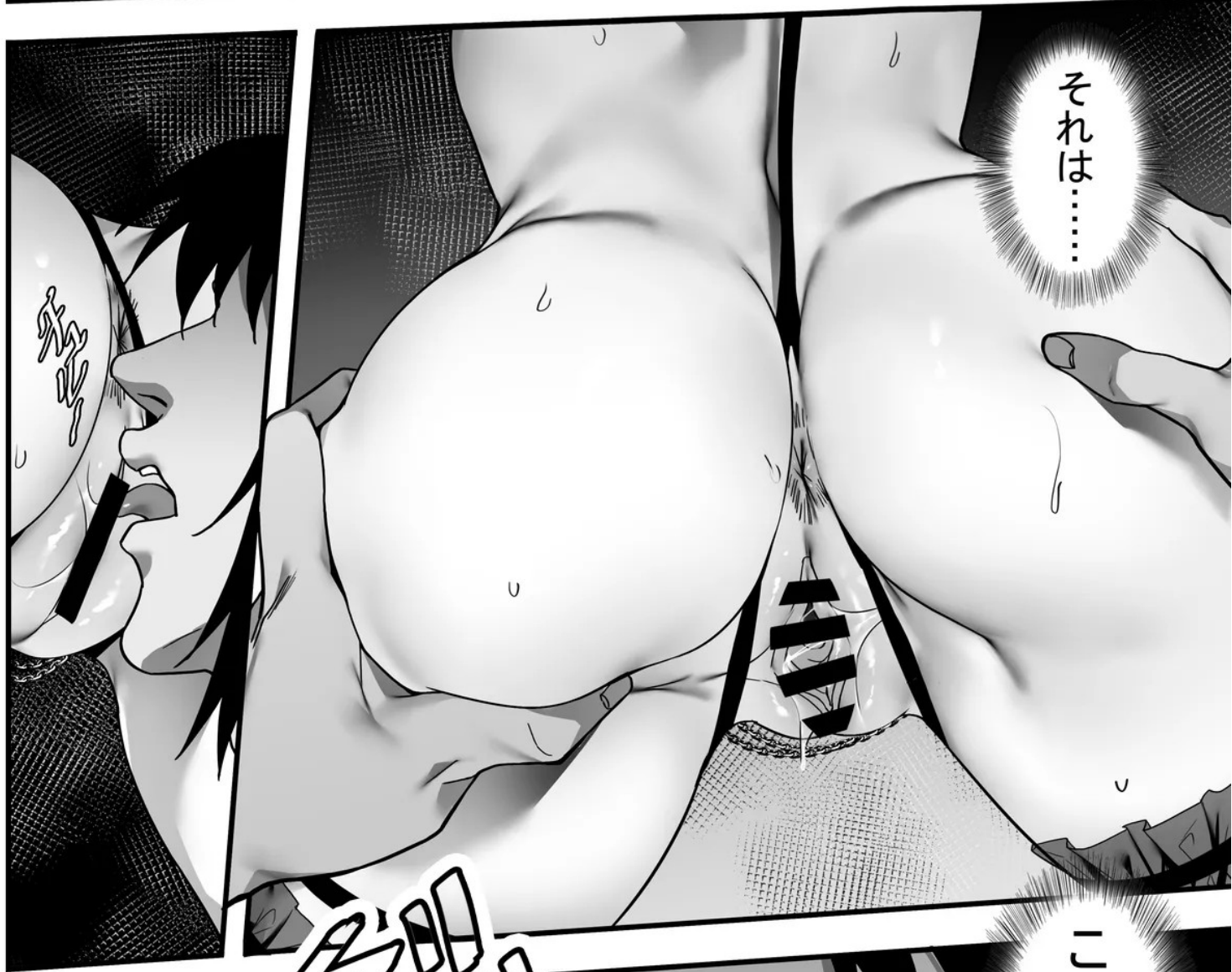
もっと早く  
知れば良かった…

こんなにも…

すばらしい  
とは！











ラスト

ブル

ド  
ン

スパートだー！

70  
4  
7





ああ!

ああ♡

お、大きい  
おチンチン  
また大きくなった!

ああー  
さらに大きく

さらに硬い  
肉棒……!

お兄さん、早く  
その肉棒で私を  
犯して!

ああー  
気持ちいい!

ああー  
ああー

もちろんさ!

すぐに彼女は  
許しを請うだろう!







ああ...!  
気持ちいい!!  
最高!

ああっ!  
お兄さんの肉棒  
世界一!

カいっぱい♡  
踏みこじって  
ああー!



も、もう  
耐えられない!

うっ!  
俺も快感の  
絶頂に...

あ、  
あともう一つ  
お願いが...

なんだ?



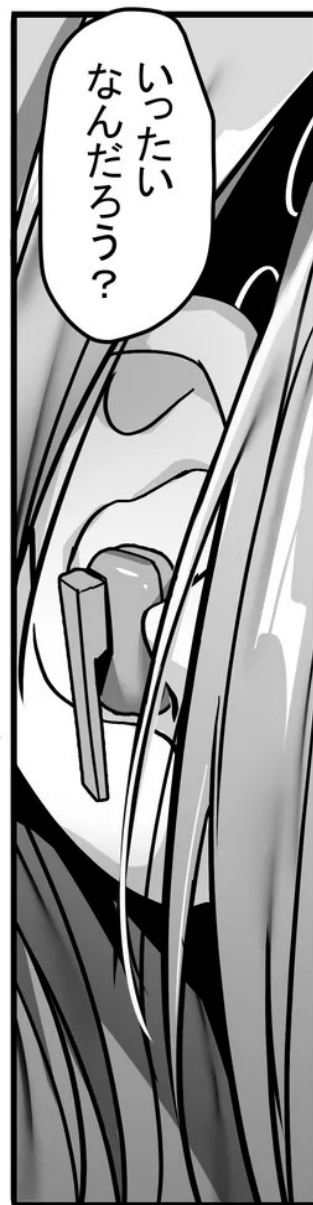
うん…  
あのね…  
頼みがあつて

んんっ?



ちよつと私に  
手をかしてくれる?

手……?



いったい  
なんだろう?



これで  
何をするの?

パ  
ン

簡単だよ



さあ、私の  
首を閉めて  
ちようだい

私の首を閉めて  
興奮してもらえる？

あっ…何だって！？

心配しないで  
念のために私  
お兄さんの手  
握るから

その時は手を  
放してくれ  
ればいいよ

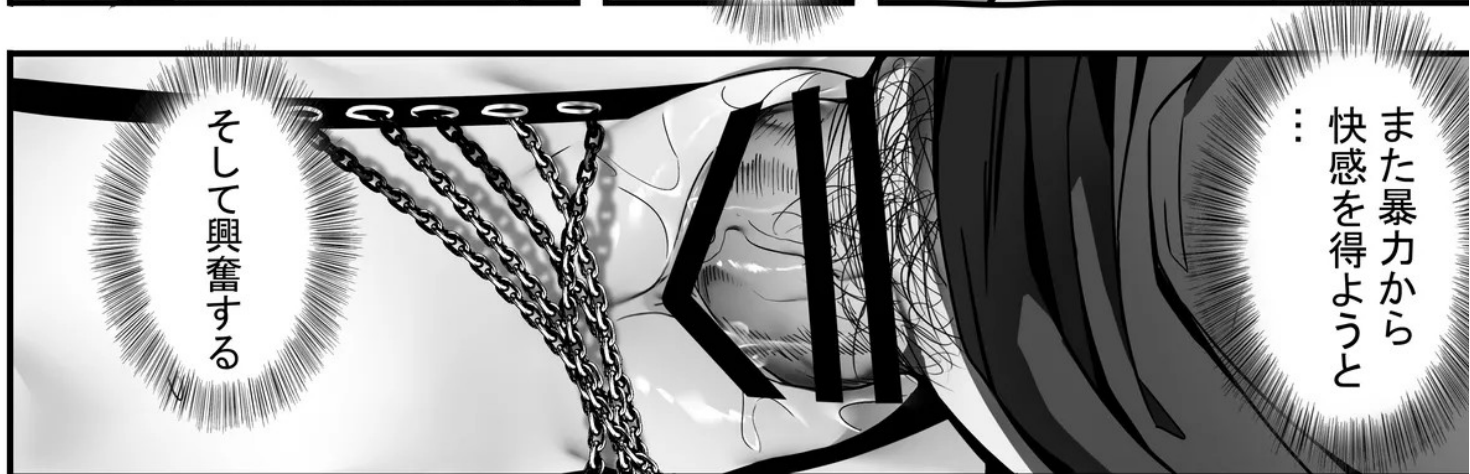
私でさえ怖く  
ないんだから

お兄さん男だし  
へっちゃらでしょ？

チエツ

またこうやって  
俺を刺激してくる

分かったよ







これらは全て

自らの経験の  
中でのみ

確信することが  
できる

これは現実のこのなのだと

ううう！

ニラニラ？

後になって俺は  
かなり危険なことを  
していたのだと  
気付いた。今後は  
気軽にやるもの  
ではないな・



気持ちいい！

最高！

これは  
絶対に…

人生で一番最高の  
セックス！

あつ！  
おチンチンが

膣を絶え間なく  
貫通していく

あつ！  
イクっ！

我慢！

もう少し  
我慢だ…

はあー  
はあー

最後  
一気に…











うわあー



はあ

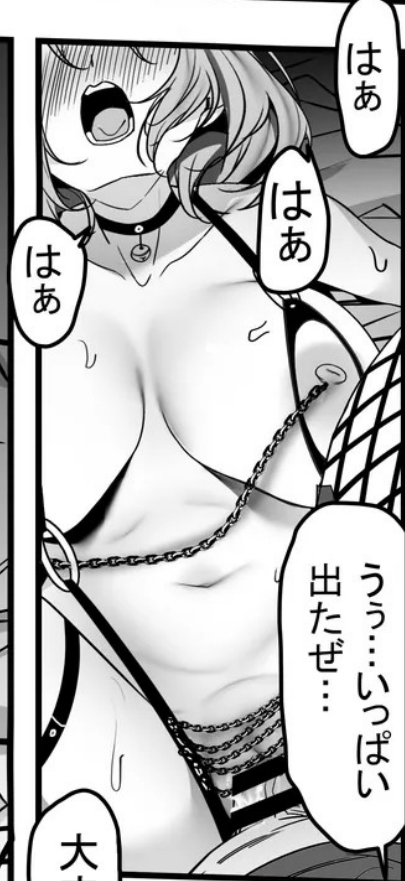
はあ

はあ

だが、この子  
を目の前にし  
冷静になれる  
わけがなかった

はあ

しかし、彼女は どうして  
俺にここまで心を  
開いてくれたんだ？



はあ

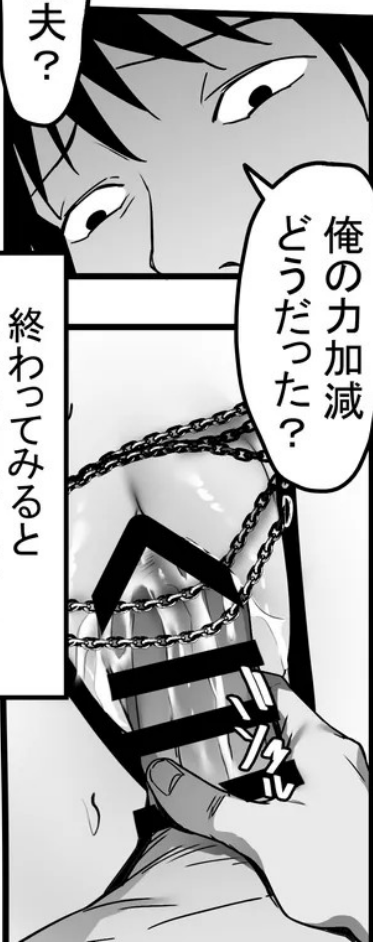
はあ

はあ

うう…いっぱい  
出たぜ…

大丈夫？

終わってみると  
なんかドキドキする



俺の力加減  
どうだった？



だ、大丈夫だよ…  
心配しないで

あ、ありがとね…

お兄さんとやれて  
私楽しかった

今ちよつと  
少しだけ



俺はその様子を  
自分の作品を

鑑賞しているかの  
ように眺めた



そして自ら  
この部屋を出た

が  
キザ



休憩させて…

彼女はすっかり  
疲れ果てている  
ようだった

流れ出る俺の精液  
も拭くことはなかった



だから、俺は  
最後まであの子の

名前すら  
知らなかった

もう遅いし  
勇もう寝てる  
だろ

ガッ

ええっ!?

まだ起きて  
たのかよ?

ははは!  
おかえり

お前  
おめでとう!

出会うべくして  
出会ったSMプレイ  
だったな

正統派のお前が腰を  
抜かさないか心配だったぜ

勇は俺に  
あの子と何があった  
のか聞いてきた

SMプレイ?

もしかして  
勇のこと  
知ってたのか?

もちろん  
これは典型的な  
主人と奴隷の  
SMプレイだよ

簡単に言うと  
奴隷は主人の言うこと  
を聞いてその任務を  
こなす

そして  
主人は色ん  
なやり方で  
奴隷を監視する

どうやらお前は  
そのプレイに  
はまったようだな

そういえば  
彼女ずっと  
イヤホンつけてた

まさか  
それは

主人とずっと  
つながっていた  
ってこと？

何？じゃあ俺はずっと  
プライバシーを  
侵害されてたってことか？

遊びだから  
そんなに真剣に  
考えるなって  
楽しかっただろ？

でも…お前  
なんでそんなと  
知ってるんだよ

はははは、  
なんでだろうな？

お前もしかして  
とくにこのプレイ  
経験してる！？

はは！  
早く詳細  
話せよ！

話はどうであれ  
俺はこの経験を  
忘れることはない

702号室を通るたびに  
あの女の子の面影が  
頭に浮かぶ

702

しかしながら、彼女は  
二度と現れる  
ことはなかった……

END



# あとがき

「ノンフィクション」をテーマとした作品を  
創作する前には、

現実世界に、フィクションを何百倍も  
上回るこんなにも多くのすばらしい事例が  
あったとは思いませんでした。

そして、それらを一刻も早く画かず  
にはいられなかったです。

皆さんぜひ乞う  
ご期待下さい！

また、もし、  
皆さんにも面白い  
sexエピソード  
がございましたら、

ぜひ、コメントで  
教えて下さい。

それらをしっかりと  
画き上げたいと  
思います^^

